

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

平成23年度病害虫発生予察注意報第5号について

平成23年度病害虫発生予察注意報第5号を発表したので送付します。

平成23年度病害虫発生予察注意報第5号

平成24年2月27日
宮 崎 県

病害虫名 灰色かび病

作物名 トマト

1 発生地域 県下全域

2 発生時期 収穫期

3 発生量 多

4 注意報の根拠

- 1) 2月中旬の巡回調査における茎葉での発生状況は、発生面積率58.4%(平年29.4%)、発病株率15.6%(平年1.8%)といずれも平年に比べて多である(図1, 図2)。
- 2) 果実での発生状況は、発生面積率25.0%(平年10.9%)と平年に比べて多、発病果率1.0%(平年0.5%)と平年に比べてやや多である(図3, 図4)。
- 3) 向こう1か月の降水量は多い確率が50%と予想されており、本病の感染に好適な条件が続くと見込まれる。(1か月予報 鹿児島地方气象台2月24日発表)

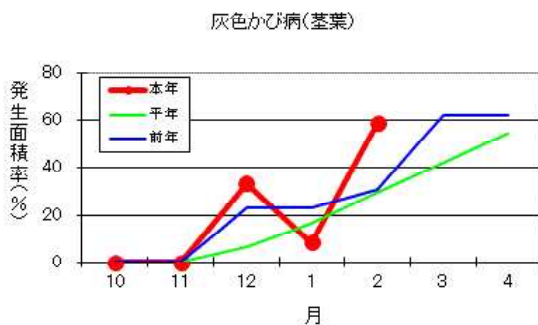


図1 茎葉での発生面積率の推移

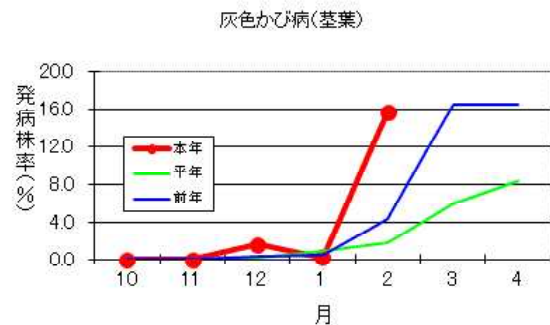


図2 発病株率の推移

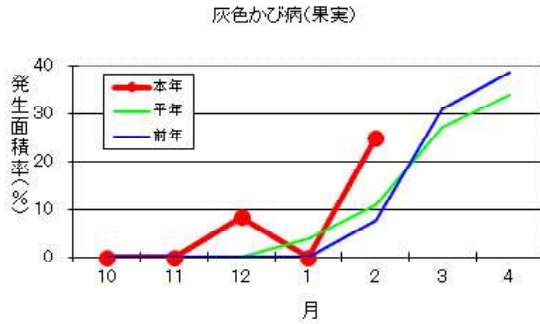


図3 果実での発生面積率の推移

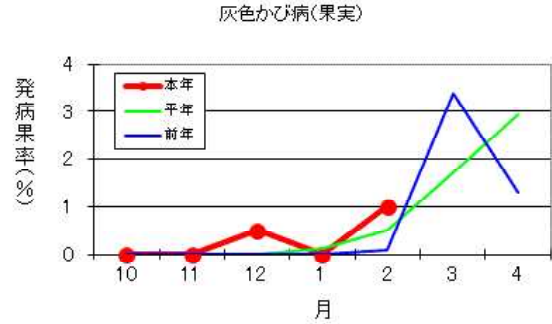


図4 発病果率の推移

5 防除上の注意

- 1) 灰色かび病菌の侵入及び発病は最適温度が15～23 と比較的低温で、多湿条件で多くなることから、ハウス内の温度および湿度管理に注意する。
- 2) 発病した果実や花弁、収穫後の果房、茎葉等は重要な伝染源になるので、こまめに取り除いてほ場外に持ち出し、適切に処分する。
- 3) 果実では、かびが発生しなくても、果実表面に黄白色の小斑点(ゴーストスポット)が生じることがあり、商品価値を著しく落とすので注意を要する。
- 4) 病勢が進行すると防除困難となるため、早期発見・早期防除に努める。
- 5) 微生物農薬の効果は保護的な予防効果が主体であるので、発生後は速やかに化学農薬等による防除を行う。
- 6) 加温機の稼働時間が短くなると果実等が結露しやすくなるので、送風機を作動させるなどの管理を行う。
- 7) 薬剤耐性菌を生じる恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

6 その他

- 1) その他詳細については、病虫害防除・肥料検査センター、総合農業試験場生物環境部、西臼杵支庁・各農林振興局(農業改良普及センター)等関係機関に照会してください。
- 2) 農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危被害防止に努めましょう。

《連絡先》

病虫害防除・肥料検査センター 壹岐

TEL : 0985-73-6670 Fax : 0985-73-2127

ホームページ : <http://www.jpnpn.ne.jp/miyazaki>

E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp